

第16回名古屋ビジネスセミナーを開催

●大学院経済学研究科

大学院経済学研究科附属国際経済政策研究センターは、2月13日(水)、日本経済新聞社名古屋支社会議室において、経済学部同窓会である社団法人キタン会との共催で、第16回名古屋ビジネスセミナーを開催しました。

同センターは、大学院経済学研究科と緊密に協力しつつ、領域横断型の研究を開拓し、その成果を内外の大学、研究

機関をはじめ広く社会に還元することを任務としています。同セミナーは、その一環として地域に開かれた研究活動を推進することを目的としており、今回は、渋谷健司東京大学大学院医学系研究科国際保健政策教室教授を講師として開催しました。

佐藤宣之国際経済政策研究センター教授の司会のもと、まず木村経済学研究科長が開会あいさつを行い、続いて、渋谷教授より「グローバル化する保健医療」と題して講演がありました。渋谷教授は、従来各国に固有であった保険医療についても、グローバル化の中で先進国・途上国間での双方向の連携が必要となり「グローバルヘルス」の概念が生み出されたこと、グローバルヘルスの進展とともに世界保健機関(WHO)のみならずその他の国際機関や民間セクターの存在感が増していること、日本が達成した国民皆保険こそがグローバルヘルスの中心課題となりつつあり、持続可能なビジネスモデルの開発に向けて我が国がリーダーシップを取ることが期待されていることについて説明しました。最後に多和田同センター長による閉会あいさつで終了しました。

WHOでの勤務経験等もふまえた渋谷教授の講演は、聴衆に知的刺激を与えているようでした。



講演する渋谷教授